

第4回 白石市まち・ひと・しごと創生戦略会議

- 1 日 時 平成27年10月15日(木) 午後3時~午後4時50分
- 2 場 所 白石市健康センター 2階 大会議室
- 3 内 容 1) 事務局より(仮称)白石市まち・ひと・しごと創生総合戦略(最終案)について説明。
- 総合戦略(最終案)に関する委員からのご意見
 - ・数値目標の年間就職件数、目標値 1,200 人は全年齢が対象でしょうか。
 - 全年齢を対象としています。
 - ・全年齢ではなく35歳以下に絞って設定した方が、全体としての達成度につながると思います。
 - ・年齢階層別に内訳を入れておくというのはいかがでしょうか。
 - ハローワークさんからこのようなデータをご提供いただけるのでしょうか。
 - ・出せないことはないですが、年齢を絞ってしまうと、該当人数がかなり少なくなってしまうと思います。
 - 活用できる資料があれば、お示ししたいと思います。
 - ・数値目標の市内事業所従業員数ですが、なぜ製造業に絞っているのでしょうか。
 - 白石市は製造業が主要な業種でありますので、製造業とさせていただきます。
 - ・商業とサービス業の減少を防がなければ、全体の減少は防げないと思います。製造業については、大きな増減はないです。商業やサービス業の雇用をどう確保するかに着目すべきではないでしょうか。

→全業種の従業員数を示した上で、その内訳を検証させていただきたいと思います。

・市民主体による地域再発見プロジェクト等に対する支援について、まだ具体的な内容は決まっていないのでしょうか。

→今後、市民活動団体の皆様のご意見を踏まえながら、所管部署において検討を行っていきます。

・市民活動団体については、市の施策と関係なく活動していくのでしょうか。

→市としては、市民主体の活動を重視しています。市の立ち位置ですが、会の立ち上げの支援、初期投資に係る費用の助成等となると思います。

・観光客入り込み数の減少の原因は分析しているのでしょうか。

→平成 22 年から平成 24 年にかけては、東日本大震災の影響が大きいと考えられます。また、白石市では観光のための各種事業を展開しておりますが、通過型となつてしまい、魅力づくりが足りなかった部分があると思います。今後は、体験型や滞在型への取り組みや、国内だけでなく海外も視野に入れた取り組みをしていく必要があると考えております。

・統計の手法の違いが影響しているのではないのでしょうか。実際にイベントを開催している感覚としては、ここまで観光客入り込み数は減少していないと思います。100 万人を目標にすることは良いと思いますが、統計の取り方をもう一度見直す必要はあるかと思います。

・統計の手法の変化はあったのでしょうか。

→白石城ができたり、スパッシュランドができたり等で観光客入り込み数が増加し、その後しばらくして停滞、減少するという変化はあると思います。ですが、統計の手法自体は変わっておりません。

・将来の夢を見つけ実現を支援する施策展開についてですが、実績を上げているNPO法人の協力を得たらどうかという意見をしたいと思います。あるNPO法人さんでは、社会人の出前出張を行っており、学生は興味のある社会人の話を聞くことができます。市内の業種のみということになると、若い人の選択肢が少ないと感じてしまいます。白石市内だけでなく、宮城県内でおもしろい働き方をしている人に出会う機会が重要だと思います。そういった活動をしている団体があるので、ご紹介させていただきました。

・若い世代の経営者の中で、姉妹都市と連携していこうということで、何度か交流事業を行っています。宿泊費を補助し、姉妹都市と積極的に交流する制度があるそうです。それを利用して、青年会議所の方々に来ていただくというやり方もあります。姉妹都市との交流のやり方としてご紹介させていただきます。

観光客入込み数についてですが、鬼小十郎まつりの来場者にアンケートを取りはじめて2回目となりましたが、急激な減少はありませんでした。市内から来る人、仙台から来る人、県外から来る人の人数は同じぐらいの割合でした。仙台を中心に情報発信をした結果がうまくいっているのではないかと思います。しかし、福島などへの情報発信はできておらず、情報の格差があるのではないのでしょうか。仙台を中心とした情報発信だけでなく、周辺都市への情報発信も重要視したほうがよいと思います。ホームページによる情報発信もアクセス数だけで計って良いのかということも検討していただきたいです。

・地元の就職率が上がることにつながってくると思いますので、是非取り組んでいただきたいと思います。

・様々な分野で活動されている方がいらっしゃいますので、その方々を事業に巻き込んでいくことも大切だと思います。

・目的が交流人口の拡大だと思いますが、多言語案内等の事業であれば、東京資本の業者に委託して作成するのではなく、地元の外国人や翻訳が出来る方にやっていただくなど、地元人材の活用をして事業を成し遂げられれば良いと思います。外国人が来たときに対応できる力にもなると思います。

・地産地消というのは農産物だけの話ではなく、地元の産業の活発化に向けた取り組みですので、今後に期待したいと思います。

・地域おこし協力隊についてですが、失敗の要因として、行政の下働きになっていることや、定住への圧力がありすぎることがあるようです。既存事業を実施してもらって人材を募集するのではなく、新たなことを挑戦する人材を呼ぶことを考えたほうが良いのではないのでしょうか。なかなか難しさもあるかと思いますが、先行事例もありますので、参考にしながら実施していただけたらと思います。

・資金を調達できるところはまだまだたくさんあり、始めから手取り足取り支援しても成功できるわけではないと思います。失敗事例や成功事例がある中で、地域に定着していく事業者はこれからたくさん出てくると思います。

・花と緑のまちづくりが一番上手くいっているような気がします。一番良い点はコミュニティを強くしているところです。既存の事業で良いものは継続していくべきだと思います。

・一緒になって作業をしていくことで、一体感が生まれ、継続されていくことがあると思います。全く新たなものにするということではなく、継続して支援していく仕組みも重要だと思います。

・公共施設等総合管理計画への理解度が数値目標に設定されておりますが、行政活動の結果として、住民にもたらされる利益をKPIにするべきだと思いますが、どのようにお考えでしょうか。

→公共施設等総合管理計画については、公共施設の廃止や集約化が伴いますので、ある程度市民の方の理解は必要と感じています。目的としては、人口が減少していく中でも、住民の方の暮らしを安全で快適なものにすることでありますので、これに向けて数値目標とさせていただきます。

・市の活動に対する、住民の方の理解度を上げたいということではないでしょうか。本来であれば、成果についての数値目標を設定すべきでは

ありますが、平成 31 年度の時点では途中経過の目標という捉え方で良いと思います。

・内閣府の手引に基づき、宮城県でも地方版総合戦略を策定すると思いますが、県の計画は実現可能なのでしょうか。

・現実的に言えば、非常に厳しい状況だと思います。検討という表現は、国や県は使っていないと思います。

・予算権限は総務省ではなく、各省庁が持っているので、確定した表現よりは、今回の白石市の案が良いと思っています。

・こういった場を通じて、皆様方がこれから先について議論したことが大切であり、地域創生の本質だと思います。これらは、皆様方が本気で地域づくりについて考えていく、手引きになっていくと思います。市民の方、職員の方を含め、皆さんで考えるきっかけにいただければと思います。